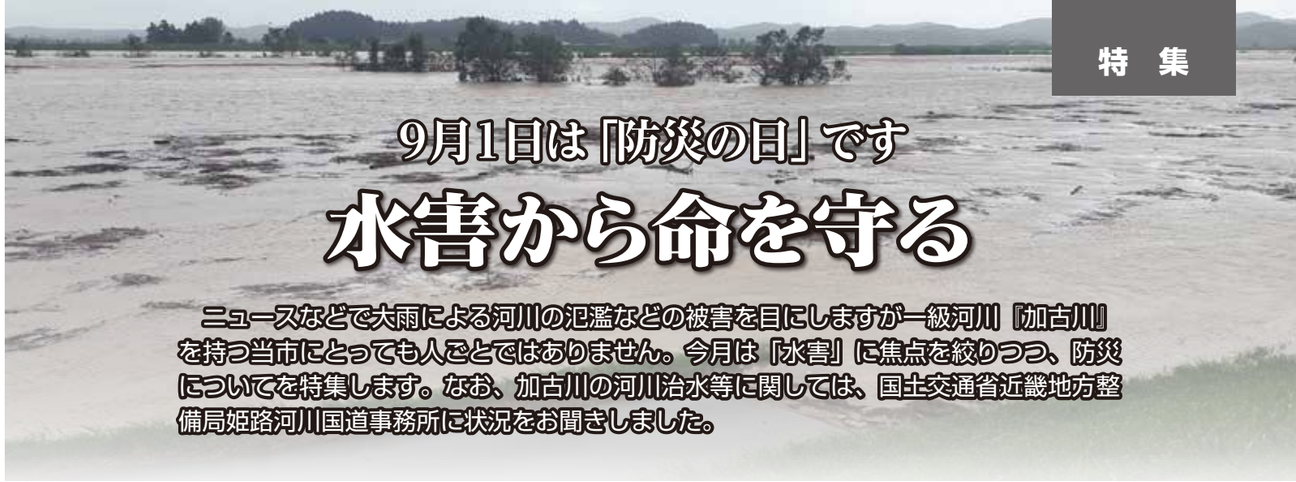

9月1日は「防災の日」です

水害から命を守る

ニュースなどで大雨による河川の氾濫などの被害を目にしますが一級河川『加古川』を持つ当市にとっても人ごとではありません。今月は「水害」に焦点を絞りつつ、防災についてを特集します。なお、加古川の河川治水等に関しては、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所に状況をお聞きしました。

危機意識を常に持とう

地球温暖化に伴う気候変動の影響により、線状降水帯などの短時間強雨の発生頻度や、降水量が年々増しており、大規模な水災害が発生する懸念が高まっています。災害の発生はどこでも起こる可能性があり、身近なこととして考えなければいけません。

加古川も昔からたびたび洪水被害を起こし、平成16年10月の台風23号により、戦後最大の洪水が発生し、特に中流部では、溢水（いっすい）はん濫により大規模な被害が発生しました。

加古川下流部には多数の住宅地や播磨臨海工業地帯の工場群が立地しており、国土交通省近畿地方整備局においても治水安全度の向上を目的に様々な整備が進められています。

姫路河川国道事務所ＨＰより

現在加古川では、浚渫工事が進められており、堆積土砂のため川底が浅くなった河口部の土砂を取り除き水深を深くすることで、雨量が多い時でも河川の流量を確保することができます。

また、中流部で築堤工事も実施されているので、必然的に上流から下流への流量が多くなることから、下流域の浚渫工事は川の氾濫を防ぐためにも必要な工事といえます。

その他にも、中洲の雑木除去など、ハード面では様々な治水対策が行われています。

しかし、ハード面の整備が整っていることに安心して「まさか〝加古川〟が」「まさか自分の地域が」と考えていては、手遅れになってしまうかもしれません。

ハード面の整備に加え、自分自身で日頃から備え、もしもの時はタイミングを逸せず避難をすることが命を守る最も大切なことです。

自分・家族、そして従業員の命を守るためにも、日頃から危機意識を持ち、備えを怠らないようにしましょう。

加古川橋の架替工事も防災効果

現在行われている国道2号線加古川橋の架替工事において、河川の流れを阻害する橋脚を現在の16基から5基に減らし、水の流れを増加させることで治水安全度を向上させ、4車線化により緊急輸送道路の機能を確保することができます。

兵庫県ＨＰより

ハザードマップを必ず確認！

ハザードマップは各市町が発行しており、加古川市も令和2年9月に最新のデータを反映した「加古川市総合防災マップ」を更新し、全戸配布されています。

加古川市
総合防災マップ

この防災マップは、概ね150年に1度の大雨の想定に加え、概ね1000年に1度の大雨も想定しています。この場合は2日間で750ミリ程度の雨が降ると予想されています。

配布された防災マップで自宅・職場がどういった被害になるのかを把握し、災害が起こった時の避難方法等について家族・職場内で確認しておくようにしましょう。

確認だけで終わらないで！

ハザードマップを見ただけで終わっていませんか？

- 自宅（職場）を書き込もう
- 「マイ・タイムライン」を作って、災害時の行動を再確認！
- 実際に避難先まで歩いてみよう（想定浸水深など水害被害の危険度を知る手がかりも見つかります）

「避難場所までの道はよく通る道だから」と思っていても、避難時は視界不良などが考えられ、いつもは無意識に通過していた段差や溝などに足を取られたりすることもあります。

また、マイ・タイムラインを作成することで「どういうタイミングで」「どのような」避難・防災行動が必要かを時系列的に整理することができます。

企業におけるハザードマップの活用

事業所から避難場所への避難経路だけでなく、従業員の自宅までの避難経路も確認しておきましょう。

- 被害が想定される地域に事業所がある場合は事前準備を怠らないようにしましょう。浸水を防ぐ「土のう」の準備、出入口に脱着式の止水板や開閉式の防水扉を取り付けたりして機械設備や倉庫への被害を防ぐ準備をしておきます。
- 地下は浸水しやすいので機械や電子機器を置かないように。
- 新拠点を探す場合は災害リスクの少ない場所を探すことができます。

介護施設などでは新たな拠点を開設する際、避難のことを考え浸水リスクの少ない場所に開設するなどして利用者の安全を確保することで信頼が高まった事例もあるようです。

警戒レベルととるべき行動

災害時に発令される避難情報は、5段階の警戒レベルを用いて発信されます。

避難情報・避難行動

警戒レベル		避難情報など	とるべき行動
市が発令	レベル5	緊急安全確保	何らかの災害が発生している状況。命を守るための最善の行動をとる。
	レベル4	避難指示〈全員避難〉	速やかに避難場所へ向かう。避難場所への移動が危険と思われる場合は近くの安全な場所や自宅のより安全な場所に避難する。
	レベル3	高齢者等避難	高齢者や障がい者、乳幼児当の避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始。その他の人は避難準備を。
気象庁が発令	レベル2	大雨・洪水・高潮注意報	避難に備えハザードマップなどで自らの避難行動を確認する。
	レベル1	早期注意情報	災害への心構えを。

避難のタイミングやどこへ避難するか、等の判断は難しく「避難所か自宅か」同じ避難所でも「学校か公民館か」など発信される避難情報をもとに判断をしなければなりません。

レベル4の「避難指示」が出たら全員避難ですので、このレベルまでに安全に避難できるタイミングを見計らって避難します。その際、マイ・タイムラインを作成しておくと、焦らず避難の準備や判断を行うことができます。

また、避難所へ行くことが危険と判断した場合は、安全な親せき宅やホテル、時には自宅・職場の上階へ避難することも選択肢にいれ、様々な避難方法を検討しましょう。

昨今の水害を見ると、これからの災害は今まで考えてこなかったリスク（被害）を考えて動かなければなりません。発令される避難情報を基準にしながら、自分自身で考えて、命を守る行動をとるようにしましょう。豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむを得ず車中泊をする場合は浸水しないよう周囲の状況等を十分確認してください。

また、市町村が指定する避難場所が変更・増設されている可能性がありますのでホームページ等で確認してください。